



華麗なる図書館利用者のための

Cool Librar

カールグラ

講座

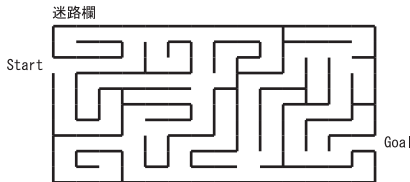
カジのうら若き青春黙示録

文 / カジ

バレンタインなんて所詮お菓子メーカーの策略じゃん！とかいう輩がいるけど、あえてその策略に乗っかって女子からチョコもらって嬉しい思いをするっていうのもまた策略。

【前回までのあらすじ】

学園のマドンナ千絵ちゃんとの奇跡的な出会いから11ヶ月、それはもういろんなことがありました。中学2年のカジ少年にとってこの11ヶ月は、まさにジェットコースターのような毎日だったたのであります。そして体験ロτζジ翌日のバレンタイン。千絵ちゃんとの待ち合わせ場所にいたのは千絵ちゃんとクラス的女子数人。「みんなから」というテンションダダ下がりの子ヨコを受け取り、静かにその場を去ろうとしたカジ少年に、恋の女神は果たして微笑むのだろうか。



ガラガラ〜とドアを開け、待ち合わせのお店を静かに出るカジ。千絵ちゃんからのチョコをもらえなかった切なさに深いため息がこぼれる。自転車にまたがり現場を後にしようとしたその時……

待って！

振り向くと、そこには千絵ちゃんの姿が！『振り向けばヨコハマ』というマルシアの歌があったような気がするが、そんなことはこの際どうでもいい。千絵ちゃんがお店から出てきてカジを引き止めたのだ。マジかあ、マジかあ。この展開あるのかあ。その後起こるであろうことを想像し、心臓はもはや360bpmほどの高速ビートを刻んでいる。

「あ、何だった？」
あくまで平静を装うカジ。はにかみながら駆け寄ってくる千絵ちゃん。頭の中には小田和正のあの名曲が流れる。

「あの〜日 あの時 あの場所です
君に会えなかつたら〜」
スローモーション！ ここ一番大事なとこだから必ずスローモーションで想像してみてくださいね！

向き合う二人。そして千絵ちゃんが光輝く紙袋を渡しながらカジにこう告げた。

「さっきのチョコはみんなからだけど、このチョコは私の気持ちだからね……」

「っん…… ありがと……」
嬉しさのあまり言葉が出ない。沈黙の中、見つめ合う二人。甘い甘いチョコのようにならぬカジの心は溶けていくのであった。

